

リアルタイムパフォーマンス分析によりデータセンターで利用可能なキャパシティを算出

パブリッククラウド、ハイブリッドクラウド、仮想化環境が混在する今日のIT環境では、データセンターで利用可能なキャパシティを知ることは容易ではありません。サービスの停止を防ぐために、多くの企業は物理サーバーの過剰なプロビジョニングやクラウドのインスタンスの自動プロビジョニングに基づき、過大なキャパシティの確保に高いコストをかけています。サイトラインのキャパシティ分析調査のサービスは、既存のインフラストラクチャが突然の需要の急増に耐えることができるか、または将来の成長をサポートすることができるかを判断し、過剰なプロビジョニングコストを回避します。

システム性能をベンチマーク

サイトラインのキャパシティ分析調査は、最初にSightline EDM (Enterprise Data Manager)ソフトウェアをデータセンターのオンサイトでインストールし、3~6週間にわたってシステムのパフォーマンスデータを収集して保存することから始まります。サイトラインの担当者は、システムをリモートで監視し、データセンター内の特定された物理サーバーおよび仮想サーバー全てにわたって継続的なデータ収集を実行し、適切なキャパシティメトリックが収集されていることを確認します。

キャパシティと需要の傾向を分析

サイトラインは、データセンター内のすべての物理サーバーまたは仮想サーバーにわたってCPU、メモリ、ディスク、およびネットワークの使用率をモニタリングすることにより、利用可能なキャパシティを把握できるようにします。サイトラインの担当者は、収集したデータを分析し、監視対象の各システムのキャパシティの概要を示す調査レポートを作成して、現在のキャパシティのベースラインを作成し、既存のワークロードに基づいて必要となるキャパシティを予測します。

Host Name	Data Source Name	Metric	Threshold	Triggered Value	Run Date	Out of Capacity Date
aces.sightlinesystems.local	Virtual ESX Host	%CPU	85.0	87.866924	03/26/2018 00:45:00	03/26/2018 01:16:00
sgard.sightlinesystems.local	Virtual ESX Host	%Memory	85.0	84.72475	03/26/2018 00:45:00	03/26/2018 00:00:00
exalms	Windows System	RAM_Used	85.0	84.2957	03/26/2018 00:45:13	03/27/2018 14:40:00
elb001x	Linux_x86_64_System	FS_%Used_for_Thres	90.0	91.02492	03/26/2018 00:31:48	04/03/2018 11:56:00
elb001x	Linux_x86_64_System	FS_%Used_for_Thres	90.0	91.02492	03/26/2018 00:37:41	04/03/2018 11:56:00
elb001x	Windows System	CPU_%CPU_for_Thres	85.0	87.08125	03/26/2018 00:45:13	03/27/2018 21:50:00
elb001x	Windows System	RAM_Used	85.0	85.71278	03/26/2018 00:45:13	03/28/2018 14:30:00

利点

データセンターで利用可能なキャパシティを知る

どのワークロードがリソースを消費しているかを特定する

特定の時間帯にどのシステムが最もアクティブであるかを判別する

異機種混在のIT環境全体を統合して可視化する

計画およびプロビジョニングが要求するキャパシティのコストを理解する

作業内容

サイト上の識別された物理/仮想サーバーにSightline EDMをインストール

3~6週間、最大500台のデバイスのパフォーマンスデータを収集

システムをリモートで監視してデータ収集を確認

CPU、メモリ、ディスク、ネットワークのキャパシティと使用率を分析

すべての監視対象システムに関する最終的なキャパシティ分析レポートを作成



日本サイトラインシステムズ株式会社
〒105-0004 東京都港区新橋 3-3-13
Tsao Hibiya 7F
<https://www.sightlinesystems.co.jp/>

サイトラインシステムズのキャパシティ分析調査によりキャパシティの限界を迎えるシステム資源と時期を予測することが可能になります。

Copyright ©2012-2019 Sightline Systems Japan K.K. & Sightline Systems Corp. All rights reserved.

SSJ-SVC-DS-CAPA-1219A